

any

ars nova yamaguchi

「エニ」

summer 2010
Jul.—Sep.

73

河上徹太郎を 知る。



特集

特別企画展

「河上徹太郎と中原中也
—その詩と真実—」

特集

03 河上徹太郎を知る。

特別企画展

「河上徹太郎と中原中也—その詩と真実」

ピックアップイベント

08 緊急指令
YCAMの夏休み企画を
リサーチせよ!

山口情報芸術センター

おやこで楽しむ演劇&ダンス 2010「赤い鼻」「ダルレの話」
海外から、おやこで鑑賞できる舞台芸術が届きました!

中谷芙二子+高谷史郎 新作プロジェクト
自然環境を取り込んだYCAMの新しい展覧会

中原中也記念館

中原中也の会共催・公開講演「編集者の見た河上徹太郎」
「新潮」の元編集長が語る、評論家河上徹太郎の素顔

山口市民会館

「ベルリンフィル12人のチェリストたち」
待望のチェロ・アンサンブルがいよいよ山口に!

12 any 通信

- ◎アーティストボイス DiVa (音楽グループ)
- ◎お先に試写しました 「川の底からこんにちは」
- ◎いただきます 日替わりランチ (「玄米菜食と地ビール ToyToy」)
- ◎GOOD GOODS YCAM ポストカード (三上晴子「Desire of Codes」欲望のコード) 展)
- ◎My Favorite 宮園智恵子 (山口情報芸術センター)

14 イベントカレンダー 7~9月

INFORMATION

河上徹太郎

KAWAKAMI Tetsutaro

1902(明治35)年長崎市生まれ。本籍地は山口県岩国市。東京府立第一中学校時代、一級下に小林秀雄がいた。旧制第一高等学校に入学するも1年で休学。ピアノを習う。東京帝国大学経済学部に入学。1924年、音楽専門誌に音楽評論を発表。27年、小林秀雄の紹介で中原中也を知る。同年10月、諸井三郎らと音楽集団「スルヤ」を結成。中也に「スルヤ」を紹介する。29年、中也とともに、同人雑誌「白痴群」を創刊し、最初の文芸評論「ベルレーヌの愛国詩」を発表。その後の評論活動をして、近代批評の先駆けと言われる。74年、中也論をまとめた『わが中原中也』を刊行。1980(昭和55)年没。

河上徹太郎を知る。

河上徹太郎と中原中也
—その詩と真実

1954(昭和29)年撮影、
河上徹太郎52歳。

日本を代表する文芸評論家、音楽評論家であり、中原中也の友人でもあった河上徹太郎。今回中原中也記念館では、山口県岩国市の名家出身であり、文壇に確固たる地位を築いた徹太郎と、詩人・中原中也をとりあげた特別企画展を行います。今回、展示の担当をされた中原中也記念館の学芸担当・藪田由梨さんは、河上徹太郎のことを改めて勉強しながら展示の準備をしてきたのだとか。そんな藪田さんに、河上徹太郎のことをじっくりお聞きしました。河上徹太郎を知ること、新しい中也の姿が鮮やかにみえてきます。



1950(昭和25)年、
地元岩国の錦帯橋を背景に、
河上徹太郎48歳。
photo:林 忠彦

河上徹太郎という人物のことを もっと地元の人にも知ってもらいたい。

なぜ今回、河上徹太郎という人物を取り上げた企画展を行うのでしょうか？

正直なところ、河上徹太郎のことを、今の若い人たちはほとんど名前も知らないのではないかと思います。中也の友人といえどやはり小林秀雄というのがあり、中原中也の生誕百年の際にも「小林秀雄と中原中也」を大きく取り上げました。しかし、文芸評論家という業績でいうと、小林秀雄と河上徹太郎はほとんど肩を並べる存在。なぜか現代では、徹太郎は小林ほどの知名度がなくなってしまっています。中也好きの人にとっては、中也の友人として河上徹太郎がいたな、というくらい

の認識になっています。そんな徹太郎をもう一度見直してみようと。ちょうど今年には没後30年にあたりますし、山口県にゆかりの深い人でもあるので、河上徹太郎という人物のことをもっと地元の人にも知ってもらいたいという思いがあって。

では具体的に、河上徹太郎とはどんな人物なのか教えてください。

肩書きでいえば、文芸評論家であり音楽評論家というふうにご紹介できます。受賞歴も多く、文芸評論家としての全体的な業績では第17回日本芸術院賞を、中也についての評論も収めた『私の詩と真

実』では第5回読売文学賞を受賞しています。中也は亡くなってから広く認められたのに対して、徹太郎は同時代に評価を高めてきたような感があります。書き始めたのは2人とも同じくらいなのですが、音楽評論家としてデビューしていますが、仕事の割合としては文芸評論が多いですね。音楽評論でスタートして、小林や中也らとの交遊のなかで文芸評論に移行していき、後年、比重は文芸評論の方にかかっていきます。

文芸評論にはこういった作品がありますか？

有名なところでは、晩年に近い作品なのですが、『有愁日記』という評論集があります。『吉田松陰』も代表作の一つ。『吉田松陰』に関していえば、内容はとても難しいのですが、そこをじっとこらえて読んでいくと「この人、吉田松陰のことがとにかく好きなんだな」というのが伝わってきます。そういうのを感じられると読んでいておもしろくなってきますよ。それから、評論家としてとても柔軟な人だったようで、いろんな文学者の全集の解説もつとめています。徹太郎の著作ではなく、全集の解説を読んで知っている方もいらっしゃるかもしれないですね。

では、音楽の評論ではどのような作品を残していますか？

音楽評論の大作といわれているのが、モーツァルトの歌劇を論じた『ドン・ジョヴァンニ』という著書です。もともと音楽に接近したきっかけは、学生時代に学校をさぼってよく一人で見に行っていた浅草オペラという舞台だったと書いています。そこからピアノに目覚めたようです。レコードもたくさん持っていたといわれていますが、現存はしていません。戦後、宇野千代さんのお家によくレコードを聴

きに行き、「ドン・ジョヴァンニ」を聴かせてもらったと書いています。でも、レコードで聴くよりかは、生の演奏の方を好んでいたようです。若い頃には「スルヤ」という音楽集団を結成していて、中也に「スルヤ」を紹介したのも徹太郎でした。最初の主要メンバーは7人ぐらい。中也は正式なメンバーではありませんでしたが、毎週会に出ていたと言われています。

中也は徹太郎をお兄さんのような存在として慕っていたのかもしれないね。

中也と徹太郎はお互いをどんな風に意識していたのでしょうか？

出会いは昭和2年、中也が20歳で、徹太郎が25歳のとき。中也から徹太郎に対しての発言はそれほど多くなく、あまり文章に残っていないのですが、徹太郎は、「出会ってから頻繁に中也は手紙をよこした。たまにそこに詩がついていて読んでくれ



1974(昭和49)年、昭和出版より刊行。友人として、また評論家として詩人・中原中也について語ったものをまとめた評論集。自身と分ちがたい中也との青春時代を描きだすとともに、その作品の純粋性について論じる。

というふうに通ってきた」と言っています。5歳年長ということもあるし、中也は徹太郎をお兄さんのような存在として慕っていたのかもしれないね。中也は相手が年上であっても、対等のように語りかけます。徹太郎への手紙の文面にもそれは表れているのですが、そんな中でも「この詩は河上に読んでもらおう」という気持ちはあったんだろうと思います。「河上ならきっと分かってくれるだろう」という安心感、信頼感をもっていただろうなということは感じ取れます。

中也が徹太郎を慕っていたのは同じ山口の出身だということも影響していますか？

もちろん影響はあったでしょうね。それに、他の中也の周りの人たちのように真っ向から喧嘩をするような相手ではなかったんだろうと思います。徹太郎はおだやかだし、とても優しい大人な人だったので、まあ喧嘩にならなかったんでしょうね。

寄り添って歩いたわけではないし、ぶつかって離れていったわけでもない、でも一定の距離を保ってずっとそばにいた。

徹太郎は中也のことをどう思っていたのでしょうか？

これはほかの友人も書いていますが、とにかく出会った当時から、毎日自分の家に中也がやってくるのだと。中也は東京に来てからいろんな友人の家の近くを転々しますが、「自分は中也の家に行ったことが一回もない、なぜなら中也が来るから」というようなことを書いていて、電話での呼び出しも頻繁にあったようです。しかも呼び出されては、その日にあっ

監修者が知る、河上徹太郎の姿

英国紳士風の長州侍 坂本忠雄 (元新潮社編集者)



河上徹太郎が中原中也記念館の企画展に登場するのは今回が2回目、最初は平成17年に小林秀雄とともにわが国の近代文芸批評を創った岩

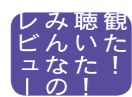
国出身の評論家としてだったが、今回は中也との深い交友関係がもたらした、徹太郎の文学的業績が辿られる。

中也が同郷の徹太郎にいかにか親密感を寄せていたかの証しの一つをあげれば、死の年に徹太郎の言葉によれば「辞世みたいな手紙」が来て、今度東京を去り帰郷して青海島など旅したい、「関東の自然は肉感が足りなくて仕方がない」と伝えている。その帰郷はかなわず、鎌倉で30歳で早世したが。

2人の共通性はカトリック的な宇宙観を純潔に求めて作品世界を確立したことだろう。河上徹太郎は素養の豊かさにおいて昭和の代表的文化人だが、先祖は系図によれば石州の河上城城主で落城後吉川家家臣となり、祖父は鳥羽伏見の戦で幕軍と戦っている。父は郵船会社の重役で英国紳士に心酔し、徹太郎に狩猟を教えた。私は父君から譲られた英国製猟銃を手にした徹太郎の狩猟に何度かお伴したが、稀にみる英国紳士風の長州侍だと思った。その日常生活は文士にしては珍しく折り目正しく、几帳面に日課をこなしていた。毎週木曜日の夕べには銀座のバーに現われ、吉田健一と痛飲した。私もよく同席したが、酔いが廻ると、「お勘定!」と叫び、いつも現金払いで悠然と立ち去る。そのいささか羽目をはずした酔態ぶりも実に美しかった。



お酒を酌み交わす河上徹太郎(写真:左)と友人 吉田健一(写真:右)。



●劇を通して人間の愚かさや身勝手さが浮き彫りになる一方で、温かさを感じさせるお話でした。会話のテンポや動きが面白くてすごく笑えました。(20代女性 「ナンシー」より)
●時を得たとてもよい催しだったと思います。今日はピアノの多くを知りました。(60代男性 「追憶ピアノハウス トーク+ドキュメンタリー上映会」より)
●子供の日で無料ということで、子連れで来ました。とてもよい機会になりました。(30代女性 「山羊の歌」までより)



【小林秀雄】 1902年生まれ。日本の近代文学の批評の場に新たな地平を拓いた批評家。文学のみならず音楽・絵画・思想など幅広い分野に深い造詣をもち、その独特の文体と鋭い洞察力は後世の批評家・芸術家に強い影響を与える。中原中也と河上徹太郎を引き合わせた人物でもある。1983年没。

徹太郎を通して中也の姿も新鮮に感じてもらえるんじゃないかと思っっています。



1965(昭和40)年、中原中也の詩碑が山口市湯田温泉・高田公園内に建立される。その除幕式に集まった中也の友人たち。写真左から河上徹太郎、小林秀雄、今日出海、大岡昇平。



たことを1から10まですべてを報告していく。普通の人は非常に面倒くさいと思っていたら、もしかしたら徹太郎も面倒くさいと思っていたかもしれません。ただ、そうやって1から10まで報告しながら人と対話することが、中也の詩作にとっては大事なことだったんだと、徹太郎は中也を理解していたようです。中也はいつも本気なので、よく人と喧嘩になって、敬遠されたりもしました。徹太郎もそんな中也のことをすべて受け入れ、見守っていたわけではありません。そ

の距離感がまた独特で、徹太郎と中也とは、一言では言い表しにくい関係だったように思います。寄り添って歩いたわけではないし、ぶつかって離れて行ったわけでもない、でも一定の距離を保ってずっとそばにいた。

徹太郎は徹太郎独自の中也像を持っていたようです。

徹太郎は「中原体験」という言葉を使うのですが、中也と接するとそれぞれみんな思うところがあるようで、中原体験を通過したか、しないかでは、その後の人生が変わるという意味だと思います。徹太郎は中原体験を生涯に何度も何度も思い返して、それを言葉にして書いています。いろんな人が中也のことを書いているけど、いやそれは何か違う、中也のことを何もわかっていないと。徹太郎は徹太郎独自の中也像を持っていたようです。そのあたりのことを、展示でご紹介できればと思います。

今回はどのような展示資料を観ることができますか？

基本的には岩国に残っている河上家からお借りしたものを中心に展示します。岩国には神奈川県川崎の自宅から移された、徹太郎の遺品や蔵書や文学者からの手紙がたくさん保管されています。書籍に関しては3,000冊くらいあり、その中から今回、新たに中也の詩集『山羊の歌』の徹太郎宛献呈署名本が発見されました。これは刊行当時、中也が友人・知人に署名をして贈っているうちのひとつで、これまで戦災で焼失してしまったと言われていたものなので、非常に貴重な資料で今回の目玉となっています。戦前のものはほとんど残されていないので、本当に奇跡的な発見です。しかも本邦初公開になります。



1955(昭和30)年撮影、河上徹太郎53歳。photo:田沼武能

episode 1 寡黙すぎる徹太郎

作家の司馬遼太郎が、「河上はあまり自分からしゃべらないものだから、一対一で会うような事があって、早く酔っ払ってくれと思ったことがある」と書いていたとか。素面の徹太郎は寡黙すぎて間がもたなかったのか…？

episode 2 お酒で出入り禁止

お酒はかなり好きだったようですが、お酒デビューは遅く、中也や小林秀雄たちと付き合いだしてから。普段は寡黙な徹太郎ですが、お酒が入るとどんな風になるのか？友人の一人である白洲次郎からはお酒が原因で一時期白洲家への出入り禁止を言い渡されたことがあったとか。何がきっかけかはなぞです…。



徹太郎こぼれ話

徹太郎の意外な一面が分かるエピソードをご紹介します！

episode 3 スポーツ万能なジェントルマン



中学時代はずっと野球少年。大人になっても文壇仲間たちと野球をやっていたようです。あとは獵やゴルフ、ヨット、水泳もやっていました。獵やゴルフは、ルールがそれほど細かくなく基本的に一人でやるもので、「ルールは全て自分のモラルやマナーにかかっている、そこがいい」というふうに言っていたとか。モラルやマナーを守りながらスポーツを楽しむその姿勢はまさにジェントルマン！

「徹太郎にしかないものを 今回の展示では 出さない」と言われました。

最後に、この展示のみどころを教えてください。

今回は、新潮社で徹太郎の担当編集者だった坂本忠雄さんに監修をお願いしました。生前の徹太郎の身近にいらっしゃった方ですし、作品の評価という意味でも色々ご意見いただいておりますが、何よりも徹太郎にしかないものをいま教えていただいております。企画趣旨も展示案もお見せして、ご意見いただくのですが、「これは他の人にもいえる」「ここが河上先生独自のこと」という指摘をよくされます。「徹太郎にしかないものを今回の展示では出さない」と言われました。私がお見せして、改めて徹太郎を一から勉強したもので、それを徹太郎にずっと寄り添ってこられた方に「肝はここだよ」と教えていただきながら、いま準備しています。

やや敷居は高めに感じられるかもしれませんが、まずは河上徹太郎という人について知っていただきたいです。徹太郎の評論は非常にとっつきにくく分かりにくい部分もあって、正直なところすべてを理解できるわけではありません。ただ、徹太郎自身、読書体験に関して「わからないところが多くても、わかるところが面白ければそれでいい」と語っていて、その精神で取り組んでいます。それに、たとえば中也が徹太郎に送った「地極の天使」や「ためいき」という詩があり、こちらも難解なのですが、徹太郎がその中也の詩を解釈したものを読んだりすると、なるほどと思う部分もあります。なぜ、中也がこの詩を徹太郎に送ったのか、2人の間の共通理解がみえてくるというか…。この企画展では、徹太郎自身のことを知ってもらえますし、徹太郎を通して中也の姿も新鮮に感じてもらえるんじゃないかと思っています。そして、徹太郎と中也が生きた時代の空気をあわせて感じていただければ嬉しいです。ぜひ中原中也記念館にお越しください。

特別企画展 「河上徹太郎と中原中也 —その詩と真実—

2010年7月23日(金)～10月3日(日)
9:00～18:00(入館は17:30まで)
会場:中原中也記念館

[入館料] ()内は20人以上の団体料金
一般 310円(262円) 大学生 210円(157円)
小中学生 150円(105円) 70歳以上 無料



PRESENT

特別企画展「河上徹太郎と中原中也」のパンフレットや中原中也記念館オリジナルグッズなどをプレゼントします。

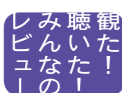
【申込方法】ご希望の方は下記のプレゼント番号を明記の上、住所・氏名・年齢・電話番号・e-mail等の連絡先、今号の「any」の感想をご記入の上、7月31日(土)までにハガキ(当日消印有効)・FAX・e-mailでご応募ください。

A 特別企画展「河上徹太郎と中原中也」パンフレット(3名)

B 河上徹太郎著「私の詩と真実」(1名)
河上徹太郎による自伝的連作エッセイ評論。富永太郎、中原中也、ヴェルレーヌらとの出会い、ピアノ修業に始まる音楽体験などを綴った11編を収録。講談社文芸文庫、2007年刊行。

C 中原中也記念館オリジナルポストカード [5枚セット] (3名)

【あて先】〒753-0075 山口市中国町7-7 (財)山口市文化振興財団
「any vol.73 特集プレゼント」係
FAX:083-901-2216 e-mail:any@yfcfp.or.jp
※当選の発表は、発送をもってかえさせていただきます。



●価値や答えを無理に探さずみていました。Gonzoさんの観客も作品だったのですね。[Y時…]は美しかったし、ふざけていたし、ひとりごとを言いながら人形やおもちゃを触っていたじぶんも重なりました。(30代男性「快快[Y時のなし]+contact Gonzo」より)
●欲望にまんまと飲み込まれました。ちょっと怖かったです。でも不思議体験が出来て感無量です。(20代女性 三上晴子[Desire of Codes | 欲望のコード]展より)
●もっとじっくりみたいと思わせる展示が多かった。(20代女性「[山羊の歌]まで」より)



●ナンシーがこんなに面白いとは思わなかったです。色んな人間模様の展開が早く、あっという間に終わってしまい、もっと見ていたかったです。(20代女性「ナンシー」より)
●大人の視点から、子どもの視点からのどちらにも楽しめる作品だと思います。子どものころ思ってたばんやりしたことを改めて教えてもらったように思いました。(10代女性「快快[Y時のなし]+contact Gonzo」より)
●カメラが動く音も、室内の暗さも、すごくドキドキした。(20代女性 三上晴子[Desire of Codes | 欲望のコード]展より)

山口情報芸術センター (YCAM)

http://www.ycam.jp/

おやこで楽しむ演劇&ダンス2010

ダンス+演劇「赤い鼻」(対象:2歳以上)

2010年7月31日(土) 14:00開演 会場:スタジオA

演劇「ダルレの話」(対象:6歳以上)

2010年8月1日(日) 14:00開演 会場:スタジオA

海外から、おやこで鑑賞できる舞台芸術が届きました!

この夏、YCAMでは子ども大人も夢中になれる舞台作品を2本開催。イタリア生まれの「赤い鼻」は、音楽にあわせて繰り広げられるダンスと、次々と展開する様々な仕掛けで、舞台の楽しさを味わえる作品。小さな箱からテンポよく飛び出すカラフルな小道具やセットにもご注目ください。韓国からやってきた「ダルレの話」は、1950年代に起きた朝鮮戦争を題材に、戦争の苦しみを乗り越えようとする家族の姿を描いた感動の物語。韓国の伝統音楽と人形も登場する生き生きとした舞台から、家族の大切さがみえてきます。



「赤い鼻」



「ダルレの話」

わたしはココに注目する!

両作品とも台詞がなく、体の動きや舞台セットだけで表現。小さなお子さんも想像を膨らませながら楽しんで観ることができます。国境を越え、言葉を越えて感動を与えてくれる舞台芸術。その感動をぜひ家族で分かち合いながらご鑑賞ください。

チケット情報 発売中

料金 全席自由 前売 一般 2,000円 any会員/特別割引 1,700円 18歳以下 1,000円
 当日 2,500円

※小学3年生までは保護者同伴 ※2公演セット券(7/30まで販売) 一般 3,500円 18歳以下 1,500円

中谷美二子+高谷史郎 新作プロジェクト

2010年8月7日(土)~10月17日(日) 10:00~19:00

会場:中庭、中央公園 ほか

自然環境を取り込んだYCAMの新しい展覧会

美術家・中谷美二子は、1966年にNY、70年に大阪万博にて、人工的に作り出された霧を使った作品「霧の彫刻」を発表、以降も霧のパフォーマンスや舞台装置、霧環境の公園デザインなどを手がけてきました。今回は、「霧の彫刻」に、ダムタイプの高谷史郎による光のインスタレーションが加わり、周囲の環境を取り込んだ大規模な新作として公開します。天候や時刻によって千変万化する霧。観客はその中に入り込み、音と光とともに刻々と表情を変えていく作品や風景を楽しむことができます。霧で満たされた不思議な空間を体験し、YCAMにご来場ください。



中谷美二子、高谷史郎との共作「IRIS」(ヴァレンシア・ビエンナーレ、スペイン、2001)

わたしはココに注目する!

屋外の中央公園にも「霧の彫刻」が登場。その中を歩いたり、外から見たり、館内の作品とはまた違ったスケールで、さまざまな角度から霧を楽しむことができます。YCAMでおもいっきり霧と遊んじゃおう!

料金 | 無料

- 特別割引:シニア(65歳以上)、障がい者及び同行の介護者1名が対象。
- いずれの公演も当日券は各種割引の対象外となります。
- 特に記載のない場合、開場は開演の30分前です。
- 特に記載のない場合、未就学時入場不可。託児サービスについては、お問い合わせください。



これまでのバックステージツアー(2007)

※申込方法等詳細はお問い合わせください。

夏休み YCAM 探検クルーズ

8月13日(金)、14日(土) 各日 14:00~15:30(各日完結)

講師:YCAM教育普及スタッフ 料金:無料

対象:小学生以上(小学3年生までは保護者同伴)

各回45名(要申込)

いろんな装置がいっぱい、YCAM探検ツアーに出かけよう!

普段は見る事ができないYCAMの舞台裏を探検するバックステージツアー。実際の制作現場で、音響や照明スタッフの解説を聞きながら、作品が生み出される舞台裏に潜入!「こんな場所があったんだ」「こんな装置を使っているんだ」など、知らなかったYCAMがみえてくる!

冒険好きな人に
 オススメ◎

YCAMの 夏休み企画を リサーチせよ!

この夏YCAMに行くと面白いイベントに出会えるという情報をキャッチ!
 ここでは、any編集部がリサーチした
 夏休みに予定している楽しさ◎のイベントをレポートします。



参考写真:ワークショップ「walking around surround」(2008)

※申込方法等詳細はお問い合わせください。

ワークショップ

「surround garden — 響きあう音とカラダ」

8月21日(土) 14:00~17:00、
 22日(日) 14:00~17:50 (2日間通し)

会場:スタジオA 料金:500円

対象:小学3年生以上/15名(要申込)

音とからだの関係を、
 実際に聴いて動いて体験してみよう!

ダンサーとして活躍し、NHK教育番組で放送された「ワニパレ」の人としてお馴染みの白井剛による音とダンスのワークショップ。音はどこまで届く? どんなふうに聴こえる? 音に耳を澄ませながら、自分のからだの動きと、変わっていく音を観察してみよう。音の秘密や不思議が分かるかも!?

知的好奇心が
 旺盛な人に
 オススメ◎

真夏の夜の星空上映会

「チョコレート・アンダーグラウンド」ほか

8月14日(土)、15日(日)、21日(土)、22日(日) 日没後

会場:中央公園(山口情報芸術センター前)

料金:無料(申込不要) ※雨天の場合はYCAM内

星空の下で、映画を満喫!

毎年たくさんの人がやって来る大好評の野外上映会。6回目となる今回はさらにパワーアップして4日間に拡大。芝生の上に座ったり寝転んだりしながら、涼しい夏の夜を映画と一緒に過ごしてみたいか? さあ、今年も数物を持ってYCAMに集合!

特別な夏の夜の
 思い出を
 作りたい人に
 ◎



これまでの真夏の夜の星空上映会(2009)

- 14日(土) 「チョコレート・アンダーグラウンド」
- 15日(日) 「ブルー・ハワイ」
- 21日(土) 「ロングスト・ヤード」
- 22日(日) 「のんちゃんのり弁」

mini PICKUP!



「パイレーツオブ花山田小学校」

2010年9月23日(木・祝)

18:00開演

会場:山口情報芸術センター
 スタジオA

実力派の劇団うりんこによる怪しくて不思議な冒険物語。

照子の父は自称冒険家。ふらっと帰ってきては「アフリカの人喰いトラと人喰いゴリラの世紀の対決の話」などいつもあり得ない話を聞かせます。そんな父が「花山田県花山田市花山田町字花山田」にある小学校の話を語り出す…。

[チケット情報]7月17日(土)~
 [料金]全席自由 ※4歳以上有料
 前売 一般 3,000円
 any会員 2,500円
 こどもステーション山口会員 無料
 当日 3,500円

先行チケット
 発売情報
 早チケ
 7月3日
 発売!

中村恩恵+首藤康之 ダンス公演

2010年10月3日(日)

14:00開演

会場:山口情報芸術センター
 スタジオA



中村恩恵 首藤康之 ©MITSUO

クラシックバレエを基礎に、イリ・キリアン、モーリス・ベジャールをはじめとする世界的な振付家のもとで、キャリアを積み、そのテクニックを独自の表現へと飛躍させてきた中村恩恵と首藤康之が、ダンス作品を披露します。

[チケット情報]7月3日(土)~
 [料金]全席自由
 前売 一般 3,000円
 any会員・特別割引 2,700円
 25歳以下 2,000円
 当日 3,500円

中原中也記念館

http://www.chuyakan.jp/

中原中也の会共催・公開講演

「編集者の見た河上徹太郎」

2010年9月18日(土) 13:00～ (予定)

会場:ホテルニュータナカ

「新潮」の元編集長が語る、評論家河上徹太郎の素顔



昨年の公開講演の様子

中原中也記念館では、中原中也の会との共催により、夏の特別企画展「河上徹太郎と中原中也」と連動した企画として、「編集者の見た河上徹太郎」と題した公開講演会を行います。講師は、今回の特別企画展の監修者でもあり、新潮社が発行する文芸雑誌「新潮」の編集長を14年間勤めた坂本忠雄。

彼は新潮社の編集者として、河上徹太郎をはじめ、

料金 ■ 500円

【講師】坂本忠雄(元新潮社編集者)

川端康成、小林秀雄、大岡昇平、安岡章太郎、開高健、石原慎太郎、大江健三郎、江藤淳など、日本を代表する、錚々たる面々の文学者を担当してきました。編集者の鋭い視線を通してみえてくる“河上徹太郎”とは? 今回の講演会では、山口県が誇る偉大な評論家、河上徹太郎の素顔や魅力を、大いに語っていただきます。

わたしはココに注目する!

生前の河上徹太郎を深く知る坂本忠雄さん。文字には記録されていない裏話もご存知のようです。坂本さんのお話を通して、河上徹太郎の息づかいを感じることができるのではないでしょうか。

検定 中 也



詩碑「桑名の駅」

“焼きはまぐり”で有名な三重県桑名にある桑名駅に、1994年、駅開業100周年を記念して詩碑「桑名の駅」が建立されました。「桑名の駅」は、1935年8月につくられた詩です。中也の死後、雑誌「文学界」に遺稿として発表されました。作品の舞台は桑名駅のホーム。そこで駅長さんと言葉を交わした体験がもとになっています。中也が桑名駅に降り立った理由とは何でしょうか?

- 1 台風による水害のため
- 2 親せきに会うため
- 3 途中下車したくなった

答えは14ページ

山口市民会館

http://www.c-able.ne.jp/~shiminkk/

「ベルリンフィル12人のチェリストたち」

2010年7月7日(水) 19:00開演

会場:大ホール

待望のチェロ・アンサンブルがよいよ山口に!

世界最高峰と謳われる「ベルリン・フィルハーモニー管弦楽団(ベルリンフィル)」。そのチェロセクション全員で結成された“ベルリンフィル12人のチェリストたち”は、数あるアンサンブルの中でも特に人気が高く、世界中の音楽ファンをとりこにしてみました。そんな超人気のチェロ・アンサンブルが、ついに山口に初上陸します!

彼らの魅力は何と言っても、レパートリーの幅広さ。オリジナル曲から映画音楽、タンゴやクラシックの名曲等々、常に柔軟な姿勢とチャレンジ精神で、自分たちの音楽を追求してきました。今回も「バリの花」をテーマに、フランス・パリにちなんだ曲に挑戦しています。さらに、チェロのみの演奏とは思えないほどの重厚、かつ美しく繊細な音色も、じっくりとお楽しみください。他では味わうことのできない世界レベルの演奏を、絶対に聴き逃しなく!



わたしはココに注目する!

当日は、12人全員が一同に並ぶサイン会を予定。世界的に活躍する演奏家に間近で会えるチャンスです! CDを買ってぜひご参加ください。最新アルバム「ばら色の人生〜パリへのオマージュ〜」は、今回演奏する曲が収録されているのでオススメです。

チケット情報 発売中
料金 全席指定 一般 S席 6,000円/A席 5,000円/B席 4,000円 ※any会員は一般料金より各500円引
大学生以下(A・B席のみ) 各半額

一青窈 Tour 2010「おかわりありませんか」

2010年10月2日(土) 18:00開演(45分前開場)

会場:山口市民会館 大ホール

2002年、「もらい泣き」でデビューし、そのエキゾチックな歌声で一躍注目を集めた女性シンガー一青窈。すべての作品の作詞を自ら手がけ、デビュー以降も「ハナミズキ」など数々のヒット曲を生み出し、幅広い世代から支持を受けてきました。音楽活動の一方では、04年の初主演映画「珈琲時光」で日本アカデミー賞新人賞を受賞、08年には、音楽劇「箱の中の女」で主演を務めるなど、幅広くその独特な個性を発揮しています。

そんな一青窈がこの秋、待望の山口ライブを開催! 代表曲「ハナミズキ」から最新アルバム「花蓮街」まで、魅惑的な歌声と胸に響く歌詞で、多くの人々の心をつかんでほしい一青窈の魅力が詰まったライブにぜひお越しください。

チケット情報 発売中
料金 全席指定 前売 一般 5,900円 any会員 5,400円

「スロヴァキア放送交響楽団」

2010年11月4日(木) 19:00開演 会場:山口市民会館 大ホール

1929年創立、スロヴァキアの首都ブラチスラヴァを中心に活躍する歴史あるオーケストラ「スロヴァキア放送交響楽団」。200枚以上のディスコグラフィを誇り、その演奏は地元のみならず世界中のファンを魅了してきました。10年ぶりの来日となる本公演では、ドヴォルザークの交響曲第9番「新世界より」、ベートーヴェンの交響曲第5番「運命」など、名曲で構成されたプログラムでお届けします。

チケット情報
any会員先行予約 7月10日(土)～
一般発売 7月24日(土)～
【料金】全席指定
前売 S席 8,000円
A席 6,000円
B席 4,000円 ※any会員 各500円引

- いずれの公演も当日券は各種割引の対象外となります。
- 特に記載のない場合、開場は開演の30分前です。
- 特に記載のない場合、未就学児入場不可。託児サービスについては、お問い合わせください。

ホールに おいでませ

「子どものための 楽しい音楽会」

2010年8月20日(金)

15:00開演

会場:山口市民会館 大ホール



この度は、家族みんなで楽しめる音楽会を開催いたします。サクソフォン、ヴァイオリン、ピアノ、パーカッションの一流奏者が集まり、素敵な音楽を演奏。また演奏の合間には“おんのすけ”という可愛いキャラクターが舞台上に登場して、出演者と一緒にコンサートでのマナーや楽器を紹介してくれます。

初めてでもクラシック音楽の世界を楽しく体験できるこの音楽会にぜひお出かけを!
(やまぐち市民文化の会)

[チケット情報] 7月1日(木)～

[料金] 全席自由

ペア券(おとな1人・子ども1人) 1,000円

おとな券 1,000円

子ども券(0歳～中学生) 500円

[問い合わせ] TEL.083-923-1000

中也を味わおう

「青い瞳」

1 夏の朝

かなしい心に夜が明けた、
うれしい心に夜が明けた、
いいや、これはどうしたといふのだ?
さてもかなしい夜の明けた!

青い瞳は動かなかった、
世界はまだみな眠つてゐた、
さうして『その時』は過ぎつゝあつた、
あ、退い退い話。

青い瞳は動かなかった、
——いまは動いてゐるかもしれない……
青い瞳は動かなかつた、
いたいたしくて美しかった!

私はいまは此処(ここ)にゐる、黄色い灯影に。
あれからどうなつたのかしらない……
あ、『あの時』はあ、して過ぎつゝあつた!
碧(あお)い、噴き出す蒸気のやうに。

【解説コメント】

中原中也記念館の前庭で行っている屋外展示。今年度は「色の詩」をテーマに、前後期3篇ずつ、6篇の詩を展示しますが、ここでは前期の展示から1篇をご紹介します。

「青い瞳」は「四季」1935(昭和10)年12月号に発表され、のちに中也の第2詩集「在りし日の歌」に収められました。引用は全2節のうち第1節です。

「青い瞳」といえば、具体的には白人種の眼が思い起こされるかと思いますが、この詩では、より抽象的で大きな存在を象徴しているようにも受け取れます。最終行に出てくる「碧」とは、もとはあおく美しい玉のことを意味する語で、転じて、青色や緑色を指すようになりました。

この詩は、他の2篇の詩とあわせて9月まで展示しています。ぜひ足をお運びください。

any通信

暑い夏、大歓迎!
元気よく外に出かけて
この夏を満喫しちゃおう!!



中也直筆の葉書が
新たに発見される!



今年の3月、詩人・中原中也の直筆葉書が見つかりました。この葉書は山岸光吉に宛てたもので、ここから、中也が詩集を出版しようとしていた当時の様子を読み取ることができます。どうやら、中也は不登校状態にある弟の教育問題について、母と相談することが目的で帰省するようで、同じ葉書に「詩集は何

れにせよ九月中には出す都合です」とあることから、不調に終わった詩集『山羊の歌』の予約募集に代わって、実家から出版費用の援助を取りつけた可能性が高く、それも帰省の目的であったとも考えられています。見つかったばかりのこの貴重な葉書は、短い期間ですが中原中也記念館で特別展示され、たくさんの方にみていただきました。

YCAM から世界へ
旅するアート作品たち

世界的に活躍する音楽家・坂本龍一のオペラを下敷きに、美術家の高谷史郎との共同制作により、山口情報芸術センターで誕生したアート作品「LIFE」。音と映像の新しい表現方法を試みた作品として2007年に山口で初公開されて以降も評判を集め、世界各地のアート施設やフェスティバルで作品を発表

するなど、いまも海外を巡回中。最近ではローマでも作品が公開され、多くの反響を呼びました。また、6月6日まで山口で発表された三上晴子新作「Desire of Codes」も、今後ドイツでの巡回が決まっています。来場者に強いインパクトを与えたこの作品が、海外でどのような評価を受けるのか、その反応がいまから楽しみです!!



「LIFE - fluid, invisible, inaudible ...」(2007)

ARTIST VOICE

アーティスト
ボイス

DiVa (音楽グループ)

今年の中原中也生誕祭「空の下朗読会」には、谷川賢作率いるバンド“DiVa”が出演。中原中也や谷川俊太郎などの詩に曲をつけたオリジナル作品を、春の空気漂う気持ちのいい屋外ステージで演奏していただきました。さてさて、久しぶりの山口でのコンサートは、いかがでしたか?

雨男の詩人と晴れ女の歌手



写真左より: 谷川賢作、高瀬makoring、麻里子、大坪寛彦

9年ぶりに中也生誕祭「空の下朗読会」に現代詩を歌うバンド“DiVa”で出演の機会を得た。前回は自他共に認める雨男の父と共演だったので、その日はどしゃぶり。空の下ならぬ仮設テントの下になってしまった。今回は、業界屈指の晴れ女歌手、makoringさんと一緒とあれば、当然のごと

く晴れるわけである。当日の朝、温泉地特有のゆるやかな空気を楽しみながらの散歩で、宿に近い中也記念館に立ち寄ると、まだ8時だというのに、スタッフの方々はずきずきと働いていらっしゃった。礼! 皆様のおかげで、今日もいいコンサートになるぞ、の予感どおり、晴れ渡った空の下、すばらしい朗読と音楽のひとつときでした。終演後のサイン会で、小さなお子様連れのお母さんから一言「前は上の子がこれくらいの時(9年前ですものね!)に来て、DiVaのファンになりました」。ああ、うれしいなあ。こうやって人の心にとどくことを続けられる幸せ。晴れても雨でもまた山口に来ます! (谷川賢作)

「空の下朗読会」

2010年4月29日
会場: 中原中也記念館 前庭



詩人・中原中也の誕生日である4月29日に毎年行う「空の下朗読会」。1部の朗読会では、誰でも自由に参加でき、今年も市内だけではなく県外からも多くの方が来られ、思い思いの方法で中也の詩や自作の詩を朗読。2部では現代詩を歌うバンド“DiVa”が出演。中也や谷川俊太郎の詩を、谷川賢作のピアノ、大坪寛彦のベースの演奏にあわせて、ボーカルの高瀬麻里子が澄み切った声で歌い上げた。明るい空に言葉と音楽が響きわたり、耳に心地よく残る印象的なコンサートとなった。

DiVa (ディーバ)

現代詩を歌うバンドとして1995年に結成。メンバーは、谷川賢作(ピアノ)、大坪寛彦(ベース)、高瀬makoring、麻里子(ボーカル)の3人。2002年に活動を一旦休止するも07年に再開。音楽のコンサートを全国各地で開催。詩人・谷川俊太郎の作品を中心に次々とオリジナル作品を発表。個性的な楽曲のクオリティは、矢野龍子など多数のミュージシャンにもカバーされ、結成当初から話題を集めている。



「川の底からこんにちは」

(2009年/日本/112分/カラー)
【監督】石井裕也 【出演】満島ひかり、遠藤雅、志賀廣太郎、岩松了

気鋭の若手映画作家・石田裕也が監督したこと、話題作やフジテレビの月9ドラマに出演、まさに「飛ぶ鳥落とす勢い」の女優・満島ひかりが主演していることから、公開前より注目を集めていた本作。独自のテンポとテンションの雰囲気の中でずんずんストーリーは、確かにここ数年よくみかけるオフビート感溢れる作品なのだが、観ていて「またか…」というすっかりした気分にならなかったのは、演出や構成力のしっかり加減と役者の力が絶妙だからだろう。

役者では、主役の自称“中の下の女”を演じる満島ひかり。昨年観た彼女の出演作「愛のむきだし」「クヒオ大佐」「ブライド」などでも、今後の活躍を大いに期待させるものがあつたが、本作ではそれ以上にその輝きや強さは威力を増していた! 周囲を固める個性的



「川の底からこんにちは」作品紹介

自称“中の下”なOLが、父の体調不良をきっかけに実家のしじみ工場を継ぐことになる。しかし、工場は倒産寸前、従業員は個性の強いおばさんばかり…。果たして、彼女はどうかち振る舞っていくのか!?
PFF2007グランプリを受賞した日本映画の新鋭、石田裕也監督の商業映画デビュー作。

My Favorite

山口情報芸術センターの託児サービスをご存じでしょうか? 図書館が開館している日の13:00~17:00と、公演開催時にもご利用いただけます。私も1歳半の娘がいるので、たくさん利用しています。子ども連れの外出は難しいことが多いですが、このようなサービスがあるのはとても嬉しいですね!

宮園智恵子(山口情報芸術センター)



宮園 智恵子

お先に
試写し
ました

な俳優陣も含めて、軽妙なかけあいがい実に心地よい。しかも、カメラや絶妙な音楽や音がしっかりと映画を支えて、一つ一つのエピソードが丁寧に描かれていくから、全てがしっかりと繋がっていく。そんな中、突如びっくりするようなシーンが自然な形で多々盛り込んであり圧倒されるのだ。前評判は嘘じゃない。このあたりも含めて、ぜひYCAMスタジオCでご確認を。

松雷淑香(YCAM シネマ担当)

2010年8月27日(金) 13:30~19:00~
28日(土) 13:30~16:00~
29日(日) 13:30~16:00~
会場: 山口情報芸術センター スタジオC
【料金】一般 1,200円 any会員/学生 1,000円
ジュニア(18歳未満)/シニア(65歳以上)
障がい者/介護の同行者1名 800円

いただきます



日替わりランチ
1,000円(税込)

野菜で心とカラダに栄養を。
動物性の食材を使わない野菜メインのランチ。本日は、玄米ご飯とにんじんスープのほかに「たかきびとキャベツの餃子」「里芋と人参のハンバーグ」など、少量ずつではあるけど、旬の野菜を使った個性的でバリエーション豊かなおかずが10品以上も並んで嬉しい。なかでも今回のお気に入りには「里芋の菜の花ジェノベーゼ和え」。白と緑の配色がきれいなおえに、辛味がびりりときて、何とも不思議なお味! こだわりの玄米ご飯はもちもちして噛みしめるほどに甘みが倍増! 胃に負担をかけない玄米の炊き方は意外と難しいらしく、炊き方講習を受け特訓したのだとか。おなかにやさしい料理と、お店の若いご夫婦とのゆるやかな語り、疲れた体をリフレッシュさせませんか?(any会員限定の特典あり)

「玄米菜食と地ビール ToyToy(トイイ)」
山口市道場前1-1-13-2F TEL.070-5057-0821
営業時間:12:00~15:00(夕方以降は要予約) 全曜日

GOOD GOODS

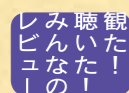


YCAM ポストカード
三上晴子「Desire of Codes」欲望のコード」展

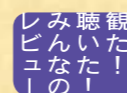
オリジナルポストカードが新入荷!

山口情報芸術センターでは、アーティスト三上晴子による「監視社会と身体」をテーマにした大規模な展覧会「Desire of Codes」欲望のコード」を開催。展示スペースのみならず、劇場空間やハワイエなどを使って3作品が展示されました。その作品を写真に収めたポストカードを制作し、現在山口情報芸術センターにて販売しています。これまでも、2008年の大友良英「ENSEMBLES」展、「ミニマインターフェイス」展、2009年のセトラ「Font/Time」展など、展覧会ごとにポストカードを制作・販売してきました。購入しやすい価格ということもあってポストカードは人気が高いグッズの一つ。来館の素敵な記念に、また誰かへのお土産にぜひご利用ください!

価格: 1枚100円/7枚セット500円(税込)



●たしか高校生の時に「カフェ・ミラー」(だったかな?)を見て衝撃を受けました。
●今日映像を観て、その背景に触れられて良かったです。(40代女性 「追伸ピナバウシュ トーク+ドキュメンタリー上映会」より)
●今回の展示で、文月さんについて詳しく知ることができた。(20代女性 「第15回中原中也賞」より)
●映画の中に入ったみたいだった。(20代男性 三上晴子「Desire of Codes」欲望のコード」展より)



●前回「コースター」も観に来させていただきましたが、その時よりも感動しました。
●喜劇とみせておいて、最後には強いメッセージを送るということが素敵でした。(20代女性 「ナンシー」より)
●こうした重要なアーカイブが開かれることはとても大切だと思います。
●今後も多くの作家を紹介してほしいと思います。(20代男性 「追伸ピナバウシュ トーク+ドキュメンタリー上映会」より)

7 July

8 August

9 September

掲載内容は2010年6月1日現在のものです。変更場合がありますので、ご了承ください。

山口情報芸術センター (YCAM) http://www.ycam.jp/

アート

シネマ

その他

Calendar grid for YCAM showing dates and event titles like 'Select CINE TECTONICS=11', 'コミュニティシネマ', and 'おやこで楽しむ演劇&ダンス2010'.

山口市民会館 http://www.c-able.ne.jp/~shiminkk/

中原中也記念館 http://www.chuyakan.jp/

Calendar grid for Shiminkk and Chuyakan showing dates and event titles like 'ベルリンフィル12人のチェリストたち' and '特別企画展「河上徹太郎と中原中也—その詩と真実」'.

[マーク説明] 体験する 参加する 聴く 観る

INFORMATION

■公演チケットのお求めについて

山口市文化振興財団が主催・共催する公演チケットは以下の方法にてご予約・ご購入ください。

予約方法

インターネット 山口市文化振興財団ホームページ (要事前登録・24時間受付) http://www.ycfcp.or.jp/



電話 チケットインフォメーション (10:00~19:00 ※火曜休館・祝日の場合は翌日) TEL. 083-920-6111

窓口 チケットインフォメーション (10:00~19:00 ※火曜休館・祝日の場合は翌日) 山口情報芸術センター

支払方法

クレジットカード インターネット・電話でチケット予約された際に利用いただけます。

セブンイレブン インターネット・電話でチケット予約された際に利用いただけます。

窓口 ※上記予約方法「窓口」参照

■託児サービスについて

山口市文化振興財団では 託児サービスを行っています。 ※おもちゃ、おむつ、着替え等必要なものはご持参ください。

公演開催時

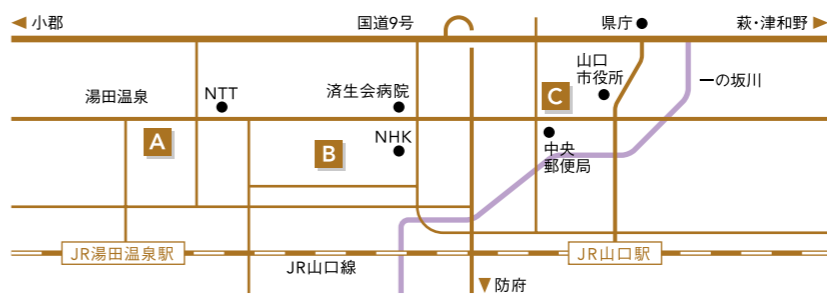
[対象] 0才(6ヶ月)以上 [料金] 1人につき500円、2人目以降は1人につき300円 [時間] 開演の30分前から終演後30分まで

山口情報芸術センター キッズスペース

[対象] 1才以上 [料金] 1人につき30分150円 [時間] 13:00~17:00 1回2時間まで

any 会員募集!

any会員は、山口情報芸術センターや山口市民会館などで行われる財団主催・共催の公演や展示、ワークショップ等の情報をいち早くお知らせし、楽しんでいただくための友の会です。



財団法人 山口市文化振興財団 Yamaguchi City Foundation for Cultural Promotion 〒753-0075 山口市中園町7-7

編集後記

これまで一緒に編集してくれたM.Mさんがいなくなり、今号はみんなに手伝ってもらいながら一人で編集。正直、しんどかったですが、なんとか形になってホッとしています。

A 中原中也記念館

〒753-0056 山口市湯田温泉1-11-21 TEL. 083-932-6430 / FAX. 083-932-6431 [開館時間] 9:00~18:00 (入館は17:30まで)

B 山口情報芸術センター(YCAM)

〒753-0075 山口市中園町7-7 TEL. 083-901-2222 / FAX. 083-901-2216 [開館時間] 10:00~20:00 (夜間イベントのある日は22:00まで)

C 山口市民会館

〒753-0074 山口市中央2-5-1 TEL. 083-923-1000 / FAX. 083-928-8488 [開館時間] 8:30~17:15

検定 中 台風による水害のため (A) 中とは妻と生後10ヶ月の長男とともに、山口から上京する途中でした。

観覧 最後の先生が撮った映像が流れたあたりはジンと来ました。contact Gonzoも面白かった! あんなの見たことないです。(30代男性 「快快[Y時のほなし]+contact Gonzo」より)

これぞ私の十口屋だ
十やのて風は吹そわたり
あゝおまへは何もなくて
まなただよび
吹き来る風が能くいふ



財団法人 山口市文化振興財団
Yamaguchi City Foundation for Cultural Promotion

わが中原中也



河上徹太郎